

記念講演 要約

日本とアジアの青少年活動の夢～若者たちの未来～

アジア・太平洋 YMCA 同盟 元総主事 山田 公平

これから20年後、30年後の日本や世界は、想像もできないぐらい変化をしていくだろう。今ある仕事も、20年後には半分ぐらい無くなると言われている。働き方も変化する。その他、国内外で大きな挑戦もあるだろう。この6年半、アジア太平洋地域のYMCAと関わりながら、変化の波を感じ、若者たちの未来がどうなるのか、そのために今私たちがすべき青少年活動は何なのかなどを考えてきた。

はっきりとしていることは気候変動が急激に起きているという事実。このまま行くと地球の平均温度は、今世紀末までに5度は上昇すると言われている。産業革命以来、人間の経済活動が大量の二酸化炭素を排出し、それがオゾン層に影響し、その結果、地球の温度が徐々に上がってきている。特にここ10～20年、その急激な上昇は驚異的とも言える。昨年12月に行われた、COP21と呼ばれる気候変動枠組み条約締約国会議では、この事実を確認し、今世紀末までに地球温度の上昇を2度未満に抑えようというパリ協定が採択され、それぞれの国で排出する二酸化炭素の量を2030年までに30%～50%減らすため、世界規模で取り組もうという決断がなされた。日本でも、主に産業界のエネルギー源を石油や石炭の使用から再生可能エネルギーに替えていくことになった。産業界では規制を設けてそれを実行することになるが、私たち一人ひとりの生き方も同時に考え直す必要がある。特に、若者たちの20年後30年後に向けて、生き方の変化が求められている。



もう一つ、日本社会で特に深刻なのが、高齢社会。65歳以上の高齢者の人口に占める割合が26.7%という国勢調査の結果が出されている。人口の多い団塊世代の人たち(1947年から1949年までの出生者)が75歳以上になる2025年までに、今の介護保険制度は大幅に修正されていく。一人一人の高齢者にとっていかに自立して生きるかが問われ、高齢者を取り巻くコミュニティーも包括ケアと呼ばれる、共助・互助を生み出すものになっていくことになる。これからの高齢者を支えるコミュニティーの中核になるのが今の若者たちである。

さらに、核家族化が進行し、高齢者夫婦や一人暮らしも増加、仕事の変化と共に家族観も変化していくことは、考えさせられる一面である。一方で、世界はどんどんグローバル化している。日本でも、外国人労働者の受け入れを真剣に検討している。20年後、30年後の社会を考えると、いまの若者たちがどういう準備が必要かを真剣に考えるべき時期かも知れない。まさにYMCAとして何をすることが大切か、が問われている時である。

まず第一に、シンプルライフという生き方の選択を一緒に考えていきたい。大量生産、大量消費という経済社会の渦に巻き込まれた生き方から、自分で考え、よりシンプルに生き、周りの人たちと共生し、分かち合う生き方である。そういう生き方を選択するという流れは、現実に欧米社会で若者たちの間で起きている現象でもある。地球環境の変化という厳しい現実に向き合う世代にとり、この生き方の選択は絶対必要になる。

第二に、社会の変化に気づくためにもボランティア活動が有効な手段となる。特にYMCAでは、地球市民教育を実施してきた。この地球市民教育とは、若者たちがコミュニティーの中に入り込み、じっくりとその社会がもつ課題や問題について学び、心から感じる(共感する)体験を大切に、そこから生まれる連帯や行動を通して社会の問題に取り組む姿勢を育むという教育方法である。

第三に、グローバル教育である。YMCAのもつ国際的ネットワーク、特にアジア各国にあるYMCAとのつながりを活用して、短期あるいは長期の人材交流が可能となっている。実際に海外に行き、人々と共に生活する中で、海外旅行とは違う、気づきや大切な人間観が生まれてくる。

第四に、高齢社会とも関連することになるが、街づくりである。今後の福祉は、それぞれの街の中でどれだけ支え合い、高齢者など社会的弱者を包括できるかが街づくりの目標となっていく。シェア金沢の取り組みなど、参考になる。

最後に、YMCAとして大切にしたい役割は、スピリチャリティーの見直しということである。スピリチャリティー(霊性)とは、「より深い世界、自分の存在の根源を見据えた上で、現実の生き方を選ぶということ」であり、それにより体と心の調和が生まれる。本当の自分は、自分を越えたところで見出せる。そういう内なる自分に触れるということを大切にしていくなのが、YMCAの存在理由ではないかと思う。

金沢YMCAの70周年に当たり、今後の金沢YMCAが、青少年の未来にとり大切な心の豊かさを意識した活動を生み出し、地域に貢献できる事を願ってやまない。